

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	前期	教室名	501教室
担 当 教 員	左 明	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 鍼灸師とスポーツトレーナーにとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。 細胞・組織・器官・器官系の種類と機能、人体の成り立ちや人体の発生を簡単に説明できる。 骨・関節の機能と構造、骨格筋の構造と機能を説明できる。 循環器系の構成とその機能を説明できる。模型または動画で習った構造物を同定できる。						
《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験:基本は100%。ただし、「2~4」の項目で増減する。 2. 小テスト:90点以上の場合、一回に付き2ポイントを定期試験にプラス。ただし、100点に達するまで。 3. 課題についての発表:正しく発表できた場合、一回に付き1ポイントプラス。ただし、60点に達するまで。 4. 居眠りや私語の場合、一回に付き1ポイントマイナス(10ポイントまで)。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 解剖学 第2版 社団法人 東洋療法学校協会 編 河野邦雄ら著 医歯薬出版株式会社 早わかり解剖学ハンドブック 左 明著 ナツメ社						
《授業外における学習方法》 教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。 授業終了後に問題集と国家試験の過去問(事前配布)を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。						
《履修に当たっての留意点》 ①知識は楽にして身に付かない。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなるよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れない。本気にプロを目指しているのであれば、頑張れ！						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖学はどんな科目か、その分類を理解できる。解剖学的姿勢と体表の区分を説明できる	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	体表区分のポイントを自分の体で確認しながら、覚えておくこと。 配布された練習問題を解いておくこと。	
		各コマにおける授業予定	解剖学とは、解剖学の分類 解剖学的姿勢、体表の区分について学ぶ			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	3つの平面(前頭面・水平面・矢状面)と相対的な位置を表す用語をすらすら説明できる。人体を縦に区切る線や体幹の横断レベルを示す目安を述べることができる	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	友達同士で専門用語をを口から出しながら覚えておくこと。(響きで覚えることが大事だよ) 配布された練習問題を解いておくこと。	
		各コマにおける授業予定	方向と位置を表す用語について学ぶ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	細胞の構成要素とその機能を説明できる。とくに細胞内小器官の機能がポイント	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。	
		各コマにおける授業予定	細胞の構造と機能について学ぶ			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	細胞分裂周期、分裂の仕方を説明できる。DNAの構造、RNAの種類と機能、タンパク質合成の過程を理解できる	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。	
		各コマにおける授業予定	細胞分裂と遺伝子について学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の4大分類、組織の種類・分布と機能を説明できる	解剖学教科書 早わかり解剖学ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。	
		各コマにおける授業予定	上皮組織と腺・支持組織・結合組織・軟骨組織と骨組織 支持組織・筋組織について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外の準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨学① 骨の構造と機能を理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	骨の生理作用・形状・構造・代謝・成長、軟骨の構造について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨学② 頭部・脊椎・胸郭の構造を理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	脳頭蓋・顔面頭蓋、脊椎、胸郭の解剖について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨学③ 上肢・下肢の骨格について学ぶ	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	上肢帯の骨格、上腕骨、前腕骨、手の骨、上肢の関節 寛骨と骨盤、大腿骨と膝蓋骨、下腿骨、足の骨、下肢の関節について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋学① 骨格筋の機能と構造を理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	骨格筋の作用、構造、筋線維と筋原線維について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋学② 上肢の筋を理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	上肢帯の筋、上腕の筋、前腕の筋、手の筋について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋学③ 下肢の筋を理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	下肢帯の筋、大腿の筋、下腿の筋、足の筋について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋学④ 体幹部の筋を理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	深背筋、深胸筋、横隔膜、骨盤底筋、腹筋群と鼠径靭帯について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	体循環と肺循環、動脈と静脈と毛細血管、動脈血と静脈血、吻合を述べることができる	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	循環器系の基礎知識 心臓：心臓の所在と大きさ、心臓の壁について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック 心臓の模型	
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心膜、心臓の構造と分布する血管、心臓における血液の流れを理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	心臓：心膜、心臓外景と内景、心臓の弁、心臓における血液の流れについて学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	冠状動脈の分枝とその分布域、心臓の刺激伝導系と心電図各波形の意味を理解する	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 友達同士で問題を出し合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	心臓：栄養血管、心臓の神経、刺激伝導系と心電図について学ぶ	早わかり解剖学ハンドブック	

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	501教室
担 当 教 員	左 明	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>鍼灸師とスポーツトレーナーにとって必要とされる正常な人体の基本構造と機能を理解することを目標とする。 細胞・組織・器官・器官系の種類と機能、人体の成り立ちや人体の発生を簡単に説明できる。 骨・関節の機能と構造、骨格筋の構造と機能を説明できる。 循環器系の構成とその機能を説明できる。模型または動画で習った構造物を同定できる。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>1. 定期試験:基本は100%。ただし、「2~4」の項目で増減する。 2. 小テスト:90点以上の場合、一回に付き2ポイントを定期試験にプラス。ただし、100点に達するまで。 3. 課題についての発表:正しく発表できた場合、一回に付き1ポイントプラス。ただし、60点に達するまで。 4. 居眠りや私語の場合、一回に付き1ポイントマイナス(10ポイントまで)。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>解剖学 第2版 社団法人 東洋療法学校協会 編 河野邦雄ら著 医歯薬出版株式会社 早わかり解剖学ハンドブック 左 明著 ナツメ社</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書と参考書をよく読み、積極的な予習・復習に努めること。 授業終了後に問題集と国家試験の過去問(事前配布)を解くこと。わからないところをそのままにしないで、友達や、先生に質問し、その理解を高めること。また、積極的に模型を活用し、様々な構造物をイメージすること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>①知識は楽にして身に付かない。人体の構造と機能という医学基礎知識を習得するには努力が必要。 ②人体についての知識は増えれば増えるほど、勉強が楽しくなるよ。 ③病理や臨床については、解剖学の知識がなければ語れない。本気にプロを目指しているのであれば、頑張れ!</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	模型で心臓の構造を説明できるようになる	解剖学教科書 早わかり解剖学 ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強するこ と。	
		各コマにおける授業予定	模型で心臓の構造確認を行う VTR鑑賞			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	大動脈と主な分枝を図示し、分布域を概説できる	解剖学教科書 早わかり解剖学 ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強するこ と。	
		各コマにおける授業予定	動脈:大動脈とその分枝			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	頭頸部、上肢と下肢の動脈を図示し、分布域を概説できる 動脈の拍動について、自己触診ができる	解剖学教科書 早わかり解剖学 ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強するこ と。	
		各コマにおける授業予定	動脈:頭頸部・上肢と下肢の動脈			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	静脈系の特徴を説明できる 硬膜静脈洞を図示し、各部分の名称を説明できる 上大静脈と下大静脈の根枝を概説できる	解剖学教科書 早わかり解剖学 ハンドブック	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強するこ と。	
		各コマにおける授業予定	静脈:静脈系の特徴・全身の静脈(一)			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	主な状静脈を図示し、奇静脈系、上肢と下肢の静脈を説明できる	解剖学教科書 早わかり解剖学 ハンドブック 模型	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強するこ と。	
		各コマにおける授業予定	静脈:全身の静脈(二)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	門脈系の構造と還流域、門脈系と体静脈系の吻合を説明できる 胎児循環の特徴を概説できる	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	静脈(三) 胎児循環	早わかり解剖学 ハンドブック	
第22回	講義 形式	授業を通じての到達目標	胸管と右リンパ本幹を経由するリンパの流れを概説できる リンパ節、脾臓、胸腺の構造、リンパ管系の働きを説明できる	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。
		各コマにおける授業予定	リンパ管系	早わかり解剖学 ハンドブック	
第23回	講義 形式	授業を通じての到達目標	各消化器官の位置と形態を概説できる 歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる 組織レベルで消化管の基本構造を理解し説明できる	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	消化器系(一) 消化器系の構成と働き 消化管:口腔・歯・舌・唾液腺、消化管の基本構造	早わかり解剖学 ハンドブック	
第24回	講義 形式	授業を通じての到達目標	咽頭、食道、胃、小腸、大腸の基本構造と各部位の構造上の特徴を説明できる	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	消化器系(二) 消化管:咽頭・食道・胃・小腸・大腸	早わかり解剖学 ハンドブック	
第25回	演習 形式	授業を通じての到達目標	肝臓の外観、肝臓の組織構造、胆嚢と胆汁の分泌経路を説明できる 膵臓の外観と構成(外分泌腺・内分泌腺)、膵臓からの分泌物を列挙できる	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	消化器系(三) 消化腺:肝臓・膵臓	早わかり解剖学 ハンドブック	
第26回	講義 形式	授業を通じての到達目標	腹膜の構造と機能、腹膜と臓器の関係を説明できる。 過去問を積極的に解き、習った知識の理解を深め、達成感を体験できる。	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	消化器系(四) 腹膜・腹膜による腹部内臓の区分 過去問チャレンジ	早わかり解剖学 ハンドブック	
第27回	講義 形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の働きと構成を概説できる。 鼻腔、副鼻腔、喉頭の主な構造を図示できる。	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系(一) 呼吸器系の働きと構成 イントロ 気道:鼻腔・副鼻腔・喉頭	早わかり解剖学 ハンドブック	
第28回	講義 実習形式	授業を通じての到達目標	左右の気管支の違いを図示できる。気管支の分岐、肺葉、肺区域と肺門、肺胞の構造を説明できる。	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系(二) 気道:気管と気管支の分岐 肺	早わかり解剖学 ハンドブック 模型	
第29回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	胸膜と縦隔を説明できる。 呼吸器と消化器の構造を模型にて同定できる	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題を 解いておくこと。 友達同士で問題を出し 合いながら勉強すること。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系(三) 胸膜と縦隔 呼吸器系と消化器系の構造を模型にて実習	早わかり解剖学 ハンドブック	
第30回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ	解剖学教科書	教科書を読むこと。 配布された練習問題と 過去問を繰り返し解くこと。
		各コマにおける授業予定	まとめ	早わかり解剖学 ハンドブック	